



〒892-0841
鹿児島市照国町13-42
カトリック鹿児島教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



新しい時代を見据えて

教区の役職・担当等を発表

復活祭を前に教区長・中野裕明司教は、諮問機関である司祭評議会のメンバー等を教会法、規約に照らし合わせて確認・選出、また青少年司牧など委員会・担当・顧問などについても、今後の見通しを見据えて以下のように発表した。(敬称略)

司教 中野裕明
総代理 泉 浩二
地区長 頭島光(レデン
プトール会地区)、松永正男
(奄美大島地区)

司祭評議会 会長・司
教、副会長・総代理、事務
局長・末吉卓也、評議員
松永正男(奄美地区長)、頭
島光、福岡英雄(以上、レデ
ンプトール会)、サンタマリ
ア(ザベリオ会)、内野洋平
(コンベンツアル会)、栃尾
泰英、ベルナルディーノ、テ
イエノ(教区司祭)

教区顧問団(司教任命)
頭島光、泉浩二、ベルナルデ
イーノ、内野洋平(書記・末
吉卓也)

教区評議会 会長・司
教、副会長・総代理、評議員
書記長、会計部長(以上、[E]
fficio)、各教会の主任司祭
と信徒の代表1人

経済問題評議会 会
長・教区長、副会長・総代
理(教区会計)、書記・書記
長、評議員 小隈憲士、頭島
光(以上、教区顧問)、松永
正男(奄美地区長)、益満紀
久夫(奄美地区信徒)、川口

茂(終身助祭)、森山茂知、中
野三郎、藤山幸子、本田まゆ
み(以上、本土地区信徒)

**「宗教法人カトリック
鹿児島司教区」責任役員会**
(司教任命) 代表役員・司
教、責任役員 竹山昭、永山
幸弘、小隈憲士、泉浩二、(書
記・末吉卓也)

教区裁判所 法務代
理・ハンマ、裁判官・永山
幸弘、絆の保護官・竹山
昭、公証官・末吉卓也、検閲
者・竹山昭

本部事務局
(1) 宗教法人部 会計部Ⅱ泉
浩二(部長)、前田育子、山
下真二(以上、信徒) 広
報部Ⅱ泉浩二(部長)、山
下真二(次長・編集長)

(2) 学校法人部「聖マリア学
園」・森章子(信徒)
(3) 社会福祉法人「善き牧者
会」・頭島光(理事長)

(4) 鹿児島教区カトリック幼
稚園協会・頭島光(会長)

委員会
① 教区典礼委員会 朴鎮亮
② 教区墓地委員会 末吉卓
也、山下真二、前田育子
③ 終身助祭委員会 竹山
昭、泉浩二、末吉卓也

- 永正男(名瀬クリア)
② 鹿児島連合壮年会 アン
③ 奄美連合壮年会 松永正
男
④ 看護協会 小隈憲士
⑤ 医師会 山口好信
⑥ 教区教師の会 竹山昭
(大学)、山口好信(小中
高)
⑦ 修道女連盟 竹山昭(鹿
児島地区)、松永正男(奄
美地区)
⑧ 奄美カトリック女性連盟
松永正男
⑨ 鹿児島きぼうの電話 竹
山昭
⑩ オリーブの会 丸野六雄
⑪ 愛の泉 久保俊弘(終身
助祭)

今年度初の「シノドス」

4月16日にザビエル教会
でささげられた聖香油ミサ
後に、定例司祭集会(コン
ベンツス)が開かれた。会
議ではまず、小島芳武さん



の終身助祭や諏訪勝郎神学
生の助祭の叙階式、田代竜
之神学生の祭壇奉仕者選任
式についての報告があった
ほか、徳之島宣教所記念碑
除幕、福岡カトリック神学
院の開校についても紹介さ
れた。その後は、今年度の
役職や役割が確認された
後、秋に開催予定の鹿児島
教区シノドスについて中野
司教から説明がなされた。
教区シノドス開催の必要

性を説いた中野司教は、シ
ノドスの起源とその会議の
性質を教会法に基づいて説
明。教区シノドスの開催
で、多様化している信者の
あり方を探り、教会の活性
化のための気づきの場とし
たいとその開催の意図を話
した。
司教によると教区シノド
スは、主任司祭と信徒代表
の他、修道会や各団体の代
表者の出席とし、開催前に
中野司教が質問状を送付
し、その回答をもとに話し
合うという。またシノドス
での話し合いの結果から、
中野司教は2020年の年
頭教書で教区の活動方針を
発表するとしている。
この他、日本司教団で中
野司教が担当する日韓司教
交流や新福音化部会、司祭
生涯養成部会、終身助祭養
成委員会についての説明が
あったほか、教皇訪日につ
いても情報提供等がなされ
た。

司教の手紙



皆様お元気でしょう
か。鹿児島教区では、今
年10月に「教区代表者会
議」を開くことが決まり
ました。これは、原語で
は、「シノドス」(とも
に歩む、の意)と言われ、教会法で
は、「教区共同体の全体の全益のため
に、教区司教を助けることを目的とし
て選出された部分教会(教区)の司祭
およびその他の信者の集会をいう」
(カトリック新教会法典、第460
条)と説明されています。
カトリック教会は歴史の中で、教
皇の招集のもとに全世界の司教が集つ
て、時勢に相応しい教会像を策定する
ために公会
議を開いて
きました。
因みに最近
の公会議
は、第2バ
チカン公会

教区代表者会議に向けて

鹿児島教区司教 中野 裕 明

程度ですが、シノドスはその公会議で
策定された方向性をより確実に現実化
するために、小規模ながらより頻繁に
開催されているのがその特徴であると
いえます。

この開催方法は、開会の日に代表
者がただ漠然と参集するのではなく、
約1年前にシノドス事務局からテーマ

議(1963〜1965)で、第20回
目でした。
しかし、激しい時代の変化によつ
て生じる諸問題に対処するため、第2
バチカン公会議後、教会は約3年に1
回の割合で、世界代表司教会議(シノ
ドス)を開くようになりました。つま
り、公会議は、概して100年に1回
に歩む、の意)と言われ、教会法で
は、「教区共同体の全体の全益のため
に、教区司教を助けることを目的とし
て選出された部分教会(教区)の司祭
およびその他の信者の集会をいう」
(カトリック新教会法典、第460
条)と説明されています。
カトリック教会は歴史の中で、教
皇の招集のもとに全世界の司教が集つ
て、時勢に相応しい教会像を策定する
ために公会
議を開いて
きました。
因みに最近
の公会議
は、第2バ
チカン公会

ら集められた、回答を整理して、討論
しやすいように秩序付けます。それが
いわゆる「討議要綱」というもので、
それをテキストとして、本会議が開催
されるといふ段取りになります。
会議は通常2〜3週間にわたつ
て、全体会と分科会を繰り返します
が、最後の全体会で教皇に提出する提

案を絞り込みます。提案の数は、通常
50〜100個程度になるようです。教
皇は、それらの提案に目を通した後、
半年から1年後に、自分の言葉で、
「使徒的勧告」というタイトルの文書
を発表します。これが、実質的には提
出された提案への教皇の回答といえま
す。
こうして、教会は常に、現代社会
の動きに連動しながら、この世で教会
の使命を果たしていけるかを検証して
いるのです。

私はこのような作業を鹿児島教区
でもやってみたいと思っています。教
区は小さくても世界規模で実施されて
いる方法論は、ともに歩むという意味
のシノドスの精神が生かされる限り、
教会の存在理由である福音宣教のため
に有効な手段であると思います。
そういうことで、間もなく、代表
者の皆様のお手元に最初の質問状が届
くと思います。お楽しみに!

6月21日からカウンセリング講座

鹿児島きぼうの電話

鹿児島きぼうの電話（山口寛子運営委員長）では、今年のカウンセリング講座を6月21日（金）から始めるとし、日程と講座内容、講師等を発表した（講座日程表参照）。

1987年12月9日に「社会の歪みで苦しむ人にキリストの手を差し伸べよう」「教会の耳になろう」と始められた教区の電話相談サービス。そのサービスのために電話に出て、苦しむ人々の声を傾聴するボランティア養成のために始められた講座も回を重ね、今年が32回目。電話相談サービス開始の

ために電話に出てくれる相談員養成を目的に始められたこの講座も開設準備当時は総数13回だったものが、今ではオリエンテーションを含めると23回と増えている。

また相談員養成を目的としていた講座をその内容の良さから、人間関係構築のための術を教える講座として、相談員を務める意志のない人にも門戸を広げ、電話を受けるだけではない方法で、社会に福音を伝え続けるようになっていく。電話番号099（223）3399で、週3日、1日6時間で始まったこの

3年目を迎えた「とそ子ども食堂」

ボランティア募集と会計報告

「とそ子ども食堂」はこの4月で3年目に入りました。これも皆様のご協力とお祈りのおかげとしたいと思います。毎月30人前後のお客様がいらっしゃいます。これからも、子ども食堂を必要としてくださる人のために続けていきたいと思っています。

そのためにボランティア（調理、受付、案内、会計、学習支援、絵本の読み聞かせ、遊び相手、その他）も募集しております。毎月第4土曜日に開催されます。（「とそ子ども食堂」スタッフ一同）

会計報告
（2018年4月1日～2019年3月31日）

収入の部	金額	備考
寄付金	375,300	教区 個人23人 団体5組
食事代	40,000	大人200円
雑収入	5,045	市子ども福祉課
前年度繰越金	796,690	
合計	1,217,035	

支出の部	金額	備考
食料	99,073	12回実施
消耗品	55,840	ガスコンロ ゴム手袋 マスク ラップ他
雑費	67,160	光熱費 絵本
次年度繰越金	994,962	
合計	1,217,035	

短歌

文芸

鳴池教会 前田儀子

静かなる小春日の刻過ぎてゆくつきつめて思ふことなきこの平安

枇杷の実はいち毎熟れゆくオレンジ色雨の日とも癒されてをり

+KABAYAN SEKSYON+
Mga Kakaibang Hamon sa Buhay May asawa

Ang ikawalong kabanata ng *Ang Kagalakan ng Pag-ibig* ay pinamagatang “Pag-agapay, Pagkilala, at Pagyakap sa Kahinaan.” Tinatalakay nito ang mga sitwasyong pastoral sa Simbahan “na hindi pa o hindi na naaayon sa kanyang katuruan tungkol sa kasal” (292) katulad ng pagsasamang hindi kasal, sibil na kasal lang, at diborsiyo, at ang pagtanggap sa mga ito sa loob ng Simbahan.

Hindi sapat ang maikling pagninilay na ito upang sagutin ang iba’t ibang mga katarungang pastoral sa ngayon. Ilan lang sa mga pastoral na gabay ni Papa Francisco ang mababangit.

Iminumungkahi ng Papa na sundin natin ang “katwiran ng awang pastoral”(307-312), gawing patakaran ang prinsipyo ng “paghihinay-hinay sa pangangalagang pastoral” (293-295) at ang “pagkilala sa mga kakaibang sitwasyon” (296-300).

Kailangan talaga ang ganitong maingat na pamamaraan dahil “alam nating wala namang madaling paraan” (298) para sa iba’t ibang mga kalagayang pang-mag-asawa at pampamilya.

Nakikita ni Papa Francisco ang tungkulin ng Simbahan sa ganitong mga sitwasyon na katulad ng isang “*field hospital*” na maglilingkod at “aagapay nang may ibayong pagmamalasakit sa kanyang mga anak na kinakikitaan ng mga tanda ng sugatan at naguguluhang pag-ibig” (291). Para sa Papa, ang “awang pastoral” ang susi.

Kailangan maituro ng maigi ang mga bagay na ito hinggil sa mga kakaibang hamon sa buhay may-asawa lalong lalo na sa mga kabataang nag-asawa ng maaga na hindi pa ganap na hinog ang “pag-ibig”.Karamihan sa mga kabataan na hindi pa handa sa ganitong sitwasyon, ay madalas ang pag-aaway ng mag-asawa na sa kalaunan ay nauuwi sa paghihiwalayan. Kaya kailangang talagang ituro at ibahagi sa kanila ang mga bagay na hindi para maiwasan ang paghihiwalayan ng dalawa. Kailangan talaga ang paggagabay ng Simbahan.

Katekismo para sa Taon ng Parokya bilang Komunidad (Fr.Dino)

九州青年キャンプ2019in長崎

日時：8月24日（土）14時～25日（日）11時30分

場所：伊佐ノ浦公園（西海市西海町中浦南郷1133-48）

対象：18歳以上の青年（高校生不可） 申込〆切：7月31日

費用：3,000円 主催：九州青年キャンプ2019in長崎実行委員会

申込・問合：長崎教区青少年委員会 山口竜太郎神父

TEL0959-25-0012 / fax0959-25-0472

mail：nagasaki.youth.mail@gmail.com

カトリック通信講座

命、旅立つ人に寄りそうケアについて考える。

＜受講料＞（教材費・税込）
T 001～T 004 各4,800円
T 005～T 007 各5,300円

＜お申込み＞
郵便振替用紙にご希望の講座名・講座番号（T001～T007）をご記入の上、下記にお振込みください。入金確認後教材をお送りいたします。
振替口座番号：00170-2-84745
加入者名：オリエンス宗教研究所

＜お問い合わせ＞
オリエンス宗教研究所 カトリック通信講座
〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5
TEL03-3322-7601

詳しくはHPをご覧ください。

1972年開設以来、入門への第一歩として、また信者の学び直し、黙想の助け、職員研修などにもご活用いただいております。

＜全7講座＞

T 001☆キリスト教とは＝日本の宗教観に照らして学ぶキリスト教の概要。

T 002☆聖書入門〔Ⅰ〕＝四福音書を通してイエスの生涯をたどる。

T 003☆キリスト教入門＝キリスト教の秘跡や信仰生活について学ぶ。

T 004☆神・発見の手引＝人生、自然を通して神の呼び声に耳を傾ける。

T 005☆聖書入門〔Ⅱ〕＝使徒の働きとその手紙、黙示録について学ぶ。

T 006☆幸せな結婚＝カトリックにおける結婚の意味や愛、幸福とは？

T 007☆生きること・死ぬこと＝老いや

家族の存在と寄り添いが不可欠

イエズスの聖心病院パストラルケア部長シスター泉が講演

5月11日（土）午後、教区本部で「ホスピスでの現場体験からの学び」と題する講演会があった。この講演会はNPO法人臨床パストラル研究センター九州プロ

講師・泉キリ江修道士女（シスター・泉の幼きイエズス修道士会・奄美大島出身）が招かれた。午後1時30分から始

づけ、死を迎える患者が自宅に在るような感覚で、最期を迎えたと患者本人にも安らぎが、そして見守った家族にも別れという悲しみはあるが、やりきったという満足感が残ると話した。

3 修道士女が誓願宣立記念

レデンプトール宣教修道士会

カタリナ・ガンドル修道士女（ドイツ出身）と下川千穂子修道士女（大口出身）、小牟田久美子修道士女（垂水出身）はそれぞれ60年、50年、25年という誓願宣立記念を迎えることになり、5月3日（金）3人まと

野司教様が「千の風になつて」を絶唱されたときは拍手喝采、5人のドイツ人神父様、シスターの歌声も素敵で、その他たくさんの方や踊りにも感謝でした。

ともに祈り、お祝いしてくださった皆様に、また参加できなかった方々にも心からお礼を申し上げます。これまで修道生活を支えてくださったイエズス様、マリア様、また家族、修道共同体、神父様方、そして友人、信者の皆様の励まし、祈り、導き、支えに感謝しております。頂きましたお祝いには、記念品をお返しすべきですが、カリタスジャパンを通して難民のためにその一部を寄付させて頂きたいと思ひます。



ホスピスでの学びを紹介するSr.泉

と「交流」を紹介し、「人は皆、死にたくない。それなのに死なねばならない。そんな憂いに寄り添うことで不安を取り除いてあげることは患者にとつて福音」と述べた。

その上でがん患者にとつて、痛みがないこと、聞いてくれる人がいること、家族がやってくることはとても大切な位置

「汝に禍あれ。」と訳されていることもあり、想像を絶する体験をしたときに思わず口から出る「まったく何ということか!」という言葉に相当するかもしれない。

中野、郡山の2人の司教様をはじめレデンプトール修道会日本標準管区の井上管区長、神父様方、そして連休の貴重な1日をさいて、感謝を込めて。



2人の司教と管区長を囲んで

イエズ様は度々、フアリスイヤーや律法学者たちに対して語る中で、「は不幸だ。」と言いつちます。この「不幸」と訳された言葉は、原語では嘆息を表現する間投詞です。発音を表記すると「ウアーイ」となります。

ます。日本語で同じような表現を探してみると、想像を絶する体験をしたときに思わず口から出る「まったく何ということか!」という言葉に相当するかもしれない。

《康由神父の聖書教室(14)》

あなたたちは「不幸だ」とは？



のなら、低い声で恨み辛みが込められた陰に籠った響きになっていくと想像できます。怒りによっていきり立ち、「お前にウアーイをぶつけてやる」といった感じ

で口にされている言葉かもしれない。でも、相手を心で、震え上がるような言い方であったのではないかと思われます。

この言葉を用いてイエズ様は、「世は人をつまづかせるから不幸だ。つまづきは避けられない。だが、つまづきをもたらず者は不幸である。」という言葉を用いて

会と催し

6月

1日（土）経済問題評議会・教区本部・14時
2日（日）主の昇天
▼教区修道女連盟総会・教区本部
松森孝郎神父命日（2017年）
9日（日）聖霊降臨の主日
▼北薩カトリック大会・川内教会
10日（月）3教区司祭合同黙想会・大分・14日
11日（火）フリリエル神父命日（2016年）
13日（木）泉浩二神父、鄭法鍾神父霊名（聖アントニオ）
16日（日）三位一体の主日
▼奄美の宣教司牧を考える会
18日（火）牧師神父の会・教区本部・14時
19日（水）カスグレ神父命日（1979年）
▼宗教者懇和会
23日（日）キリストの聖体
▼聖ペトロ使徒座への献金
教皇は毎年、世界各地を訪問します。そして、人々の苦しみや悩みを聞き、優しい笑顔で力づけ、数々の援助を与えます。キリストの代理者、教会の最高牧者である教皇は、祈りと具体的な援助を通して全世界の人々にいつも寄り添っているのです。この教皇に心を合わせて、わたしたちも世界中の苦しんでいる人々のために祈りと献金をささげます。教皇のこうした活動のために充てられる聖ペトロ使徒座への献金は、8世紀ごろイギリスで始まった、大人も子どももいっしょに小さな金である1ペニーを毎年教皇に献金する運動がもとになって世界中に広まったものです。

24日（月）洗礼者聖ヨハネの誕生
▼小川靖忠神父
28日（金）イエスのみ心
29日（土）聖ペトロ使徒
【聖ペトロ霊名】竹山昭神父、永山幸弘神父
【聖パウロ霊名】郡山健次郎名譽司教、小隈憲士神父、坂本進神父、アン神父、貴島丈弥神父
30日（日）年間第13主日

【司教日程】1日経済問題評議会、2日教区修道女連盟総会、4日大神学院会議（福岡）、7〜8日家庭委員会（東京）、9日北薩カトリック大会、16日奄美の宣教司牧を考える会、19日宗教者懇和会、22〜24日慰霊の日（沖縄）、26日社会福祉法人「善き牧者会」評議会、30日コレジオ祭（福岡）

祈りの意向

【祈祷の使徒会】福音宣教 司祭の生活様式 日本の教会 差別のない社会

1 田川建三が彼の数々の著作の中で語っていること（『書物としての新約聖書』勁草書房、1997年、336〜338頁、参照）

ウガンダの旅2018

⑤キルヤンガ地区小学校訪問

谷山教会信徒 岩崎正幸

ワールド・ビジョン・ジャパンを通じて貧しい国の子どもたちの支援を続けているラ・サール学園教諭の岩崎正幸さんは、昨年夏、支援している子どもたちのウガンダを訪問した。これは生徒のために執筆した「ウガンダの旅2018」の5回目。

7月30日、朝8時過ぎ。首都カンパラのホテルを出発。支援地へ。WVJ（ワールド・ビジョン・ジャパン）の支援地は、キルヤンガ地区、ナラウエヨ・キシータ地区の二つがあり、どちらもウガンダの西部、キバレ県というところにある。キバレ県にはあと2か所WVの支援地があつて、それらはワールド・ビジョン・コリア（韓国）の支援地ということだ。その支援地までは240kmほど。高速道路はない。鹿児島から久留米くらいまで国道を車で走り続けるのと同じか。そもそもウガンダの国土は24万平方キロ、本州と同じくらいの広さである。今日から4

日間は、ホイマという街のコンチキ・ホテルに連泊。ホイマという街が支援地にもっとも近い街なのだが、そこから支援地のうちキルヤンガまではさらに70kmほどある。現地スタッフの分も含めて連日、車6台を連ねて支援地訪問をするのだ。同乗者の中に、昨日のVさんがいた。朝ミサに行ってきたと言ったら、「自分だけミサにあずかってずるい」といわれてしまった。Vさん、日本では毎日ミサにあずかつてから出勤するというつわものだ。わたしはとも無理。

支援地までの240kmほどを7時間かけて行く。途中で、何度かトイレ休憩。カン

ンクリート作りの地面に穴があいているだけである。以降、支援地周辺のトイレはどこも同じ形式。トイレがあるだけまだましなのか、と思ってしまう。

予定よりだいぶ遅れて午後3時すぎ、そのクラスター事務所にて昼食。そもそもカンパラを出るときすごい渋滞だったのだ。われわれがカンパラで泊まっていたホテルは、東京でいえば霞ヶ関のようなところで、国の機関がたくさんあるその周辺。月曜の朝なのだから渋滞は当然なのであった。クラスター事務所は支援地の一つキルヤンガ地区に近い。本日の予定は、この事務所WVJの活動につ

いて話を聞くことと、近くの小学校訪問である。活動の話はよく覚えておらず。事務所話で話を聞いてもあまり頭に入らない。それに対して、小学校訪問は衝撃だった。着いて車を降りるなり、アフリカのあのリズム、あの音楽で、こどもたちによる歓迎の歌と踊り。楽器らしい楽器ではなく、体育祭の太鼓と同じようなものだが、リズム感が素晴らしい。「さすがアフリカのこどもたち」と感激してしまつた。歌と踊りで私たち一行を用意された席まで案内してくれる。

このキテンバ小学校は、校舎そのものがWVJの支援によつて、建てられている。校長先生が直々にお礼を述べる。さらに、こどもたちの活動の一環として、希望の木という取り組みをこどもたち自身が紹介してくれた。WVJを通じての支援で学校へ通うことがで

奄美で全島合同復活祭



る。省略してもよかったのだろうが、皆さんが待つていらつしやるからということとで、訪ねる。貯蓄組合によって助けられた、お金の運用について学んだ、という話を聞く。建設中の貯蓄組合の建物、いわばこのあたりの小銀行ですね、の前にて地域の皆さんと旅行団の記念撮影。小銀行といったって、その辺のコンビニより小さいんですけど。

とそ子ども食堂

ご寄付は下記口座にお願いします。
☆ゆうちょ銀行：とそ子ども食堂
店名 七八八 店番 788
普通預金 口座番号 3225173
☆鹿児島銀行：とそ子ども食堂
県庁支店 普通預金 3019349

復活の主日の4月21日（日）、奄美大島では中野裕明司教を迎え全島合同の復活祭ミサが大熊小教区にある浦上教会でさげられた。
このミサには400人余りの信者が集まり、司教とともにミサささげ、「司教様の好きな色は？」「好きなスポーツは？」など中野司教に関するクイズ大会などの余興を楽しみ交流した。

KJP（鹿児島正義と平和協議会）通信 6月号

教会には、電力会社または関連企業に勤務しているために、原発を容認せざるをえない信者がいるはずである。教会が「原発廃止」を訴えれば、そのような人たちは苦しませることになるのではないか。こうした意見を聞くことがある。確かに内心では原発廃止を願ひながらも、種々の事情で声をあげられないキリスト者がいるのは事実である。同調圧力の強いわが国では、職場や地域で原発の危険性を言うと、排除される可能性があるからだ。薩摩川内市の住民から「原発反対の声をあげられない」

という声を聞いたことがある。私たちは、電力会社勤めている人たちの考えや立場を否定しない。原発反対の声をあげないことを非難することもできない。原発を支える仕組みが、住民を分断し、教会内に分裂をもたらし、教会自身が問題なのである。原発の問題は、住民や教会の中に亀裂を生み出すおそれがあるから、触れない方が無難であるのかもしれない。しかし、このような「思考停止」は教会と社会の成長にとってマイナスでしかない。

私たちは、立場が異なるのであれば、和解と一致のために対話をするしかない。原発に関しては多くの本が出版されている。なかでもカトリック信者にとつては、「いのちへのまなざし」（増補新版）（日本カトリック司教協議会編、2016年）の2冊が理解しやすい。前者は、いのちの尊厳を守るという立場で、原発と「いのち」は共存できないことを説明している。結びのことはとして「原子力発電についても皆でよく考え、撤廃のために連帯して歩みを進めることができるよう、わたしたち日本の司教団は願っています。」と書いてある。後者は、2011年の司教団メッセージを科学的、哲学的、神学的

に裏づけるために出版されたものである。専門家たちの論文集に近く、少し難しい。そこでは原発の是非の判断に様々な立場があることを認めた上で、原発は「未来世代をも含めたすべてのいのちと尊厳を守る、という一点から判断しなければならぬ問題」であるとしている。信者が自分の頭で考えることを求めている本である。この二冊を批判的に検討する形で対話ができないものだろうか。

「原発がないと電力の供給が足りないのか」「低線量被ばく（一年間の被ばく量が十ミリシーベルト以下）に健康被害はないのか」「原発は地域経済・雇用に役立つのか」「地震や火山の噴火に対して原発は安全といえるのか」などについて信者同士で率直に話し合うことは可能である。先入観を排して語ることを通して、さらに信仰上の一致を得ることを期待している。

「わたしたちは、生活と原発の板挟みになり、苦しんでいる人々のために祈ります。同時に原発事故の被害に今も苦しんでいる多くの人々、特に、弱い立場に置かれた人々の生きる権利が侵害されないことを祈ります。」（紫原教会 山下和実）

▼社会問題の分かち合い（毎月第三土曜日）
日時：6月15日（土曜日）13時～16時
場所：教区本部
内容：原発・改憲・沖縄問題についての情報交換その他



キテンバ小学校での衝撃的な歓迎